

浜の元気は女性から！

～加工・販売の取り組みから雇用の場の創出へ～

高知県海洋局

かつお通信

高知市丸の内
高知県海洋局
発行人 久保田寿一
編集人 海洋企画課
定価 無料

何とかしなければ
栄喜地区は、養殖業とまき網漁業が盛んで、まき網で漁獲されるいわしなどを利用する加工業者も多く集まっています。マダイ養殖とまき網を兼業している漁業者も多く、昼は給餌作業、夜から明け方にかけてはまき網の操業と寝る間もなく頑張っておられます。しかし、浜値は依然として上向き見込みがないことから、女性を中心とした何とかしなければ



名付け親は宿毛市長です！

宿毛湾地域では、最近女性グループの活動が活発化してきています。平成一四年以降、相島加工クラブ、安満地(あまぢ)満天クラブ、栄喜(さかき)娘ひめ市」と三グループが発足し、安い浜値を何とかしようという思いから始まった取り組みが、地域の雇用の場の創出にまでつながってきています。今回は、夕方の宿毛市内を軽四トラックで奔走する「栄喜娘ひめ市」の取り組みをご紹介します。

れば！』という思いから取り組みが始まりました。

試行錯誤の末

まき網で漁獲された魚を少しでも高く売ろうと、刺身や天ぷらなどに加工することから始まりましたが、最初は味が安定しないなど苦勞も多かったようです。専門家のアドバイスや試行錯誤の末、今ではお寿司やお絵巻、果てはまき網の船頭さんが手打ちしたうどんに至るまで幅広い品揃えを誇ります。



魚の絵は船主さんの力作！

朝八時からメンバー七人で作り始め、午後四時には出来上がった商品を軽トラックに積み込み、市役所や病院、学校、保育園などを回ります。

きれいな漁場を次の世代に 適正給餌に努めましょう 漁場へのゴミ投棄はやめましょう



慌ただしく時間に追われます。

口の悪い客ほど...
「おさかな天国」をBGMに軽トラックが止まるとお客さんが集まってきます。まずいものをまた売りに来たか！」
そついなながら出てくる常連客は、最初の頃から毎日買ってきている大事なお客様。世間話を楽しみにする一人暮らしのお年寄りやお小遣いを手に天ぷらを買いに来る子どもも姿も。
「小さなパッケージだからこそ出来るがある。」
河原多絵代表はそう話されていました。



待ちかねた常連客が集まる。



品揃えはスーパー並み？

これからに期待！
まだ日に三万円の売り上げということですが、漁村地域に貴重な雇用の場を提供し、地域で経済を循環させる意義は大変大きいことです。自分たちで判断できる商売が楽しいというメンバーの实感が他の地域の女性グループへも波及することを期待しています。

【編集後記】
浜の活力の源はやっぱり女性？歴史を動かしてきたのもやはり女性のような気が…。私の家もやっぱりそうです(××)。

【コラム】
浜のビジネスチャンス
既にブランドとなったものとしては姫カツオ、清水サバなどがあるが、今後有望なものと言えは、冷凍シラス海援鯛、冷凍キヒナゴなど…。違った角度、視点から見れば、結構、原石は浜に転がっている。今まで漁業者が踏み込めなかった流通分野への取り組みがキーポイントだ。次年度予算に目玉として計上した土佐の魚流通販売促進事業を大いに活用し、第二の姫カツオを作りだしてほしい。

漁業経営のことなら、今すぐお電話を！
専門アドバイザーが、漁業経営、流通改善について無料でご相談に応じます。まずはお電話を！
漁業経営指導協会 tel088-825-3980
上原アドバイザー tel090-1570-1904

